

祝二百年—修猷に新世紀到来—

修猷新聞

〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5521-1111
印刷 株式会社印刷局

修猷館二百年記念号



序に代えて

今日、修猷生はその母校修猷館の創立二百年の記念日を迎える。

修猷館が藩校として一七八四年に創建されて以来その二百年の歴史と伝統の輝きはあらためて語るまでもない。我々は、まずその修猷館において共に学べるという幸せを感じとらねばならない。そしてひたすら純粋に、自分の母親の誕生日を祝うように、母校修猷館の誕生日を祝う必要がある。

しかし、これのみに終始するのは、現役の修猷生の姿勢としては失格である。修猷の今後を支え、その歴史と伝統に、より一層の輝きを加えていかねばならない我々はあえて、母校修猷館に、そして自分自身に冷静な、厳しい目をむける時を持つべきなのだ。

あえて、祭りからフクと宛め、他と自分を比較してみる。伝統に自分を預けきってしまうことなく、かつ伝統から離れてしまうこともなく、つかず離れずの位置を維持すること。祭りに懸命に加わって、かつ冷静に距離をおき、それ自身をみつめ直すこと。これらは、修猷生としての残りの歳月を有意義なものとするために必要なことであると信じている。

ある先輩が言われた。「修猷は卒業してみても、初めてその良さが分かる」と。今でも十分、いい学校だと思っているのに、卒業してみても初めて分かる良さが、あるって？そんなに大きなものなのだろうか、修猷館が修猷生に与え得るものは。

それをしっかりと受けとめるために、冷静に全てを省みて、残された修猷生としての時間を大切にしていこう。これこそが、我々にとつての「二百年事業」を意味するのである。

一九八五年五月三十日

創立記念の日に

修猷館 同窓会

会長 清沢 又四郎
副会長 石村 貞雄
顧問 竹村 茂昭

〒114 東京都荒川区西六丁-12-1
修猷館同窓会館
03-561-6663

祝創立二〇〇年

東京 修猷会

会長 松尾 金蔵
幹事長 一万田 満洲

〒100 東京都千代田区四三一九
新富ビル館
宮田会法事務所
池上 眞之
03-5521-1111

祝創立二〇〇年

中京 修猷会

会長 高木 健太郎
幹事長 青木 潤

〒460 名古屋市中区島田丁目
三〇番地三一九〇一

近畿 修猷会

会長 陣内 伝之助
副会長 田 尻 泰正
同 熊谷 尚之
幹事長 廣瀬 信夫

〒541 大阪市東区東船場五丁目三
06-621-1111

「出立」
 修猷館創立二百周年記念号の「出立」は、修猷館の歴史を振り返る貴重な機会である。この号では、創立以来の歩みを追うとともに、現在の修猷館が抱える課題と未来への展望を明らかにする。また、創立者の志を継ぐ者としての責任と使命を語り、読者の心に響くメッセージを届ける。この号を通じて、修猷館の歴史を学び、その精神を継承し、未来を共に築いていくことを目指す。

二百周年記念号に寄せて
 風雪二百年の年輪
 館長 原岡 鐵二

修猷館創立二百周年を前に、歴史を振り返るとともに、未来への展望を語る。創立者の志を継ぐ者としての責任と使命を語り、読者の心に響くメッセージを届ける。この号を通じて、修猷館の歴史を学び、その精神を継承し、未来を共に築いていくことを目指す。

制帽史

写真と共に

前帽の変遷

制帽史の発展は、社会の変化やファッションの流行を反映している。M18-20からM18-31までの変遷は、制帽のデザインと機能の進化を示している。特に、S21 (6.5号色) の登場は、制帽の歴史における重要な転換点である。

修猷200年

▼…人間が歴史を学ぶのは、その過去を知り
 ▼…である。修猷生が、修猷館の歴史を
 ▼…の自分に生かすという姿勢を忘れずに

大混乱の戦争中

—昭和十年代末—

戦時体制下の修猷館は、大きな変革を遂げた。この時期は、戦況の激変と共に、修猷生と教職員の間で、理想と現実の狭間で苦闘が行われた。修猷館の歴史を学ぶことは、この激動の時代を正しく理解し、その教訓を現代に活かすことに繋がる。

ラグビー部全国優勝

—昭和24年—

修猷館ラグビー部は、昭和24年に全国優勝を達成した。この偉業は、選手たちの熱意と団結、そして指導者の指導の賜である。この優勝は、修猷館の歴史に輝く光栄であり、選手たちの努力と情熱の結晶である。

修猷館高等学校

としての再出発

戦後の改革の中で、修猷館高等学校は新たな道を歩み始めた。戦時体制からの脱却と、民主主義の精神を基盤とした教育の再構築が求められた。修猷館は、その歴史と伝統を継承しつつ、時代の変化に対応した教育を提供し、社会に貢献する人材を育成することを目指した。

修猷の現代史

—一百年行事の総括—

修猷館は、創立以来の歴史を振り返るとともに、現代史を振り返る。この号では、修猷館の百年行事を総括し、その歩みを振り返る。修猷館の歴史は、常に時代と共に歩み、社会と共に成長してきた。この歩みを振り返り、未来への道を共に歩んでいくことを目指す。

修猷ワルソ—物語

修猷館の歴史をワルソという形式で語る。修猷館の歴史は、常に時代と共に歩み、社会と共に成長してきた。この歩みを振り返り、未来への道を共に歩んでいくことを目指す。

終戦直後の生徒達

終戦直後の修猷館は、大きな変革を遂げた。この時期は、戦況の激変と共に、修猷生と教職員の間で、理想と現実の狭間で苦闘が行われた。修猷館の歴史を学ぶことは、この激動の時代を正しく理解し、その教訓を現代に活かすことに繋がる。

田中登喜雄 (福岡県)	田中吉邦 (福岡県)	中村久雄 (福岡県)	土屋正直 (福岡県)	西嶋勲 (福岡県)	黒木四郎 (福岡県)	松田順吉 (福岡県)	佐藤次彦 (福岡県)	橋詰和元 (福岡県)	清沢眼科 (福岡県)
----------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

